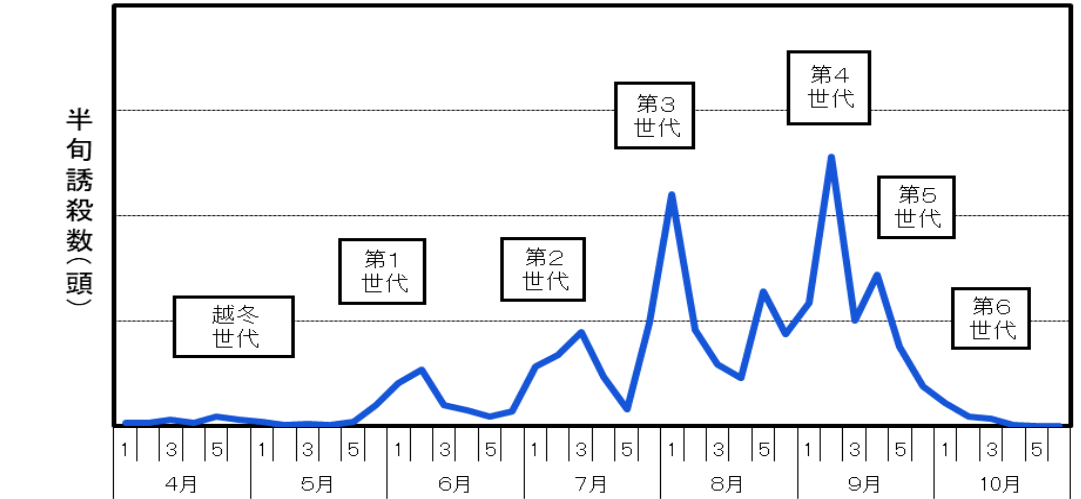


モモハモグリガのフェロモントラップ誘殺消長 [令和8年(2026年)調査]

病虫害防除部

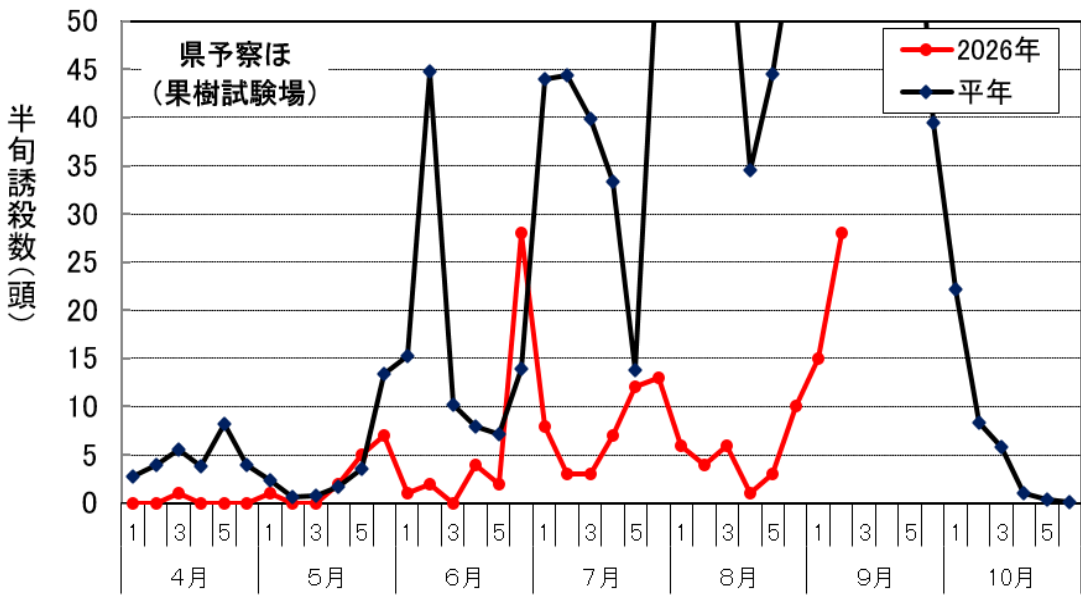
過去10年間の消長模式図（長野県果樹試験場内 県予察ほ）



【発生生態と防除のポイント】

- ・年6～7回発生する。
- ・各世代成虫の発生最盛期は、越冬成虫が4月下旬、第1世代は6月上旬、第2世代は7月中旬、第3世代は8月上旬、第4世代は8月下旬、第5世代は9月下旬、第6世代は10月中旬頃である。
- ・寄生量は第3世代から急増し、第4、5世代は高密度となる。
- ・発生が多くなる第2～4世代の防除が重点になる。
- ・薬剤防除の目的は、主に幼虫による葉への食入防止である。

○県予察ほ（須坂市 果樹試験場）



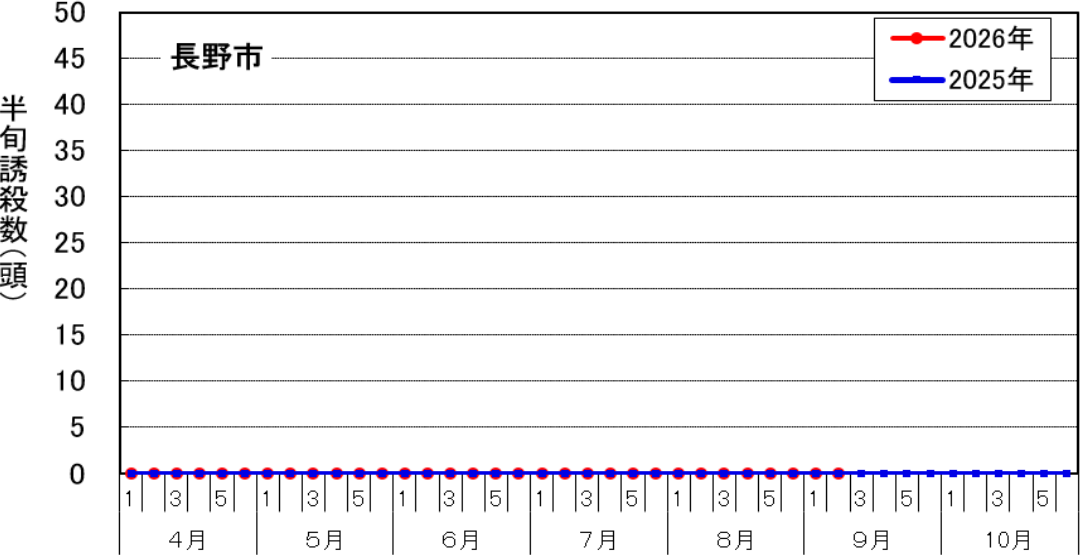
【調査地点】（標高約350m）

- ・須坂市 果樹試験場（ももほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・10年ほど前は8月から9月にかけての誘殺数が多かったため、平年値が高くなっている。ここ数年は発生が少ないが、本年も7月中旬から8月中旬まではそれほど多くなかった。しかし9月に入り、誘殺数が増加している。

○長野市（病虫害防除部）



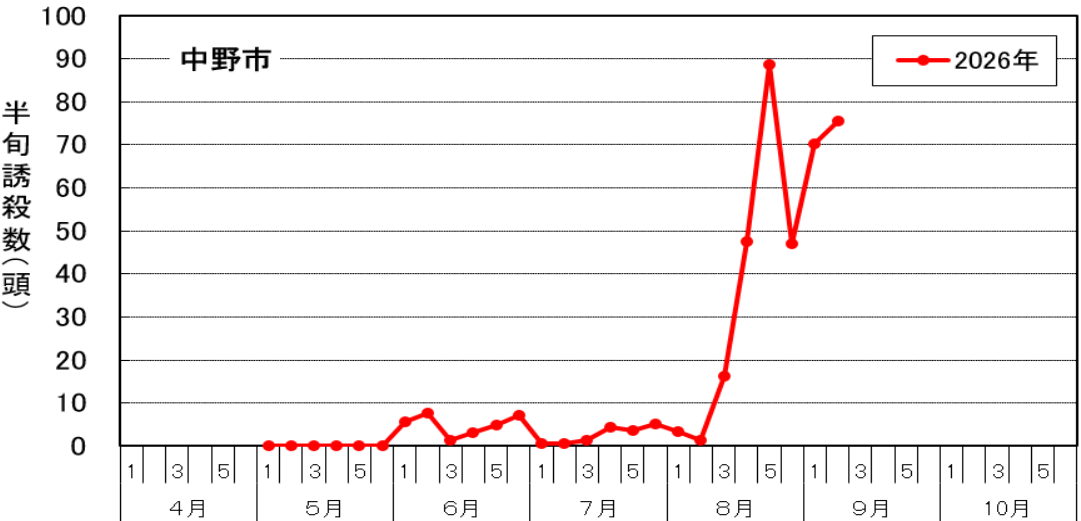
【調査地点】（標高約343m）

- ・長野市（ももほ場）
- ・2024年にほ場を変更したため、平年値はない。

【コメント】

- ・設置してあるこの本モモ園は、例年誘殺がほとんどない。
- ・今年度も9月第2半旬時点で誘殺はみられていない。

○中野市（北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約340m）

- ・中野市（ももほ場）
- ・2026年に調査地点を変更したため、平年値、前年値なし

【コメント】

- ・8月第2半旬までは少数の誘殺が記録されているだけであったが、8月第3半旬以降急激に増加した。一時的に誘殺頭数が減ったが、すぐに誘殺される数が戻っている。